

創立90周年にあたって



半明正之 JFEスチール(株) 代表取締役会長

この度、第89回通常総会におきまして本会会長に選出されました。私にとりまして身に余る光栄でありますと同時に、その責務の重大さに身の引き締まる思いです。会員各位のお力添えをいただきながら、本会発展のために努力してまいり所存です。

1915年に産声を上げた本会は、来年90周年という節目の年を迎えます。この間、我が国の鉄鋼業を取り巻く環境は、大きくかつ様々な変化を遂げてきました。足元に目を向けますと、中国の鉄鋼需要の劇的な増加によって、日本の鉄鋼業界は原料価格はもとより、商品価格、さらには生産量までもがその影響を大きく受けるという、我々がかつて経験したことのない、また予想すらしていなかった状況に直面しています。

このことは、活況を呈する中国経済が、世界経済全体における影響力を急激に拡大する中で、実質的にその経済圏を東アジア全体とし、日本鉄鋼業も既にその域内にあることを示しているといっても過言ではないでしょう。

このような状況にあって、我が国の鉄鋼産業、および鉄鋼に関する学術研究にとりまして、これまで蓄積してきた先進的な「技術力」こそが、その将来を担う重要なファクターであると考えます。

さて、本会の現状を鑑みますと、会員数の減少、「鉄と鋼」への論文投稿数の減少、講演大会発表数の減少と、協会活動の基本部分が揺らいでいると言わざるを得ない状況です。

特に、企業側の減少が目立つことに対しましては、業界に身を置く者として、まことに遺憾な事態であると認識しています。

これらの状況を踏まえ、この激動の時代における本会のあり方こそが、私の最大の問題意識であり、取り組むべき課題であると考えます。

会員各位のご協力なくしては、いかなる課題の解決も成し得ないということは言うに及びませんが、私として特に以下の点について申し上げたいと思います。

ひとつは、東アジアを中心とした近隣諸国との交流を更に活発に行うことをステップに、本会の活動の更なる活性化を図るとともに、国際的なプレゼンスの向上を実現していくということです。

世界を見渡しますと、いわゆる材料系の学協会は数多く存在しますが、鉄鋼を主体とする学協会はあまり例がありません。本会が世界の、とりわけアジアにおける鉄鋼科学・技術の中心的役割を担う学会として、一層の国際化を推進していくことが必要と考えます。

もうひとつは、真に実効のある産学連携のあり方の追求です。

本年からの国立大学の独立法人化ともあいまって、産と学の連携による成果は、双方にとりまして従来以上に重要となり、社会的な関心も増しています。産学連携において、その交流の機会、研究助成、若手技術者の育成等、真に実のある連携のあり方について、その仕組みも含めて検討してまいります。

歴代会長のご指導の下、会員各位のご尽力によって築き上げられた日本鉄鋼協会の益々の発展のために、微力ではありますが、精一杯努めてまいり所存です。会員の皆様の引き続きのご支援、ご協力を重ねてお願い申し上げます。